

「宇宙探検」の未来を探り

いつの日か夢を現実



「あなたは、宇宙へ行きたいですか？」
こんな問いかけで始まる冊の本
『日本の宇宙探検』が発売された。
制作したのはJAXA（宇宙航空研究開発機構）の
有人宇宙ミッション検討のミエル化チーム。
その代表を務めるのが高橋伸宏さんだ。
この本を制作しようと思ったきっかけは？
宇宙に対する夢や憧れとは？
宇宙開発に携わるエンジニアの思いを伺った。



「あなたは、宇宙へ行きたいですか？」と問
われたら何と答えるだろう。「どうして宇宙
へ行きたいのですか？」「宇宙で何がしたいで
すか？」「どんな宇宙船に乗ってみたいで
すか？」人それぞれいろいろな答えが出てくる
にちがいない。

JAXAではこれからの有人宇宙ミッシ
ンがどのような意義をもっていくのか、そして
どのような有人宇宙ミッションが求められて
いるのか、多くの人の意見に耳を傾け、誰も
がわかるような図や数字で表して、今後の方
向性を探っていくと有志が集まって「ミエル

シリーズ **今を輝く人**
人の和・まちの輪
有人宇宙ミッション検討のミエル化 提案代表者
JAXA システムズエンジニアリング推進室
高橋 伸宏さん



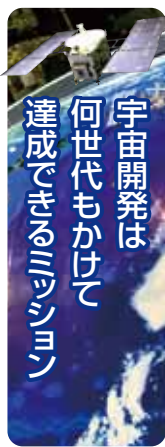
化」チームを発足。そして、JAXAの研究内
容とともに職員や筑波宇宙センターの来場
者などに行なったアンケート結果を紹介し、
また宇宙飛行士のインタビュー記事なども
盛り込んで『日本の宇宙探検』（発行：日経
印刷、税込500円）という一冊の本にまと
めた。

「宇宙を身近に
感じてもらうために
『伝える努力』を」

「宇宙にもっとも近い街」とテレビ番組で
紹介されたつくば市は、日本の宇宙開発の中
心施設である筑波宇宙センターがある場所
として知られている。高橋さんはその筑波宇
宙センターで働くエンジニア。研究開発に携わ

る技術者がどうしてこの本を作ろうと思った
のか。それは多くの人にもっと宇宙を身近に
感じてもらいたいという強い思いからだ。た
とはいえ通常業務をこなしつつ、本を作るに
は多大なエネルギーが要る。そんなハードワ
ークの支えになったのがある少年だった。

高橋さんが、岐阜県の小学校で宇宙につ
いての講演をしたときのこと。サッカーが大好
きでそれまで宇宙に興味などなかった少年
が、講演をきっかけに宇宙に興味を示し、作
文を書いて送ってきた。子どもは何を
きっかけにどんな興味をもつかわからない。
多くのきっかけを与えてあげるのが大人の
役目なら、宇宙に興味をもつきっかけになる
よう、「伝える努力」をしよう。また子供
に限らず、宇宙に興味をもった人たちがさら
に宇宙開発やJAXAについて知ることがで
きるようにしたい。そう自らを励まし、仲間
達の協力を得て完成にこぎつけた。ちなみに
少年はこの夏休みに父親と一緒にJAXAを
訪ねてきてくれたそう。



「宇宙」と聞くと日常とかけ離れた未知
の世界というイメージだが、「どこからが宇
宙か知っていますか？」「月や火星に行くのに
何日かかると思いますか？」「地球や太陽の
寿命は？」などという質問にはおのずと興味
がわく。宇宙の話が楽しいのは、そこに人類
が知らない可能性がたくさん詰まっている気
がするからだろうか。海外旅行をするよう
に、いつか気軽に宇宙旅行ができるように
なったら、それは人類共通の夢かもしれない。
そんな夢を少しでも現実に近づけるべく
研究開発をしているJAXAの職員たち。宇
宙開発とは「遠い将来役立つ技術」だと高橋
さんは言う。すぐに役立つ技術も大切ですが、
何世代もかけて継続的に研究開発を進



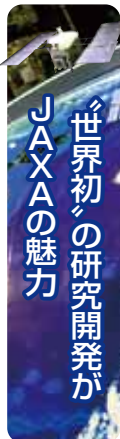
日本人でも
宇宙に行けるんだ！

めていくことも必要で、200年、300年後
に達成できるミッションに今から着手してい
るのだと。「遠い将来、必ずしも手軽に人が
宇宙に行き来できる宇宙船が現れるでしょ
う。そのとき日本が開発した安全で快適な
宇宙船があつてほしいと思いませんか。自分
たちが乗りたい宇宙船を自分たちで造りた
いのです」と開発にかける思いを語る。

ちなみに先述の問いの答えは「地上から1
00kmより上が宇宙」「時速300kmの新幹
線で月までは53日、火星までは約65年が必
要」「太陽の寿命は100億年、地球の寿命
は数十億年」。宇宙は意外と近いものの、宇
宙の果てしなさを実感する数字だ。

1992年に毛利衛宇宙飛行士が宇宙に
飛び立つ以降、日本人宇宙飛行士の活躍
はめざましく、現在もISS（国際宇宙ス
テーション）に星出彰彦宇宙飛行士が滞在
中だ。子どもたちの将来の夢にも「宇宙飛行
士」という職業が語られるようになってきた
が、高橋さんが子どもの頃は日本人が宇宙
に行くなど考えられなかった。それだけに
毛利さんが宇宙に飛び立ったことは衝撃的
だった。「日本人でも宇宙に行けるんだ！」と
いう思いが20歳の学生だった高橋さんに強く
印象付けられたという。

大学では情報通信を学んでいた高橋さ
ん。「これからはパソコンの時代」という父の影
響で小学3年生でパソコンに触れ、どんなの
めり込んでいった。まだ家庭用のパソコンが普
及していなかった時代。自分で勉強をしてプ
ログラミングを学び、ゲームやお小遣い帳のソ
フトを作つては楽しんだ。高橋少年にとってパ
ソコンは自分のアイデア次第で無限の可能性
を広げてくれるまさに「夢の箱」。「当時はパ
ソコンの本も専門的なものしかありませんで
したが、子どもにとっては難しくて当たり



世界初の研究開発が
JAXAの魅力

前知らなくて当たり前なので、何でもやつて
みようという気持ちでチャレンジしていまし
た」と高橋さん。子どもには難しすぎるか
ら、子どもにはできないから、普段の生活で
そんな風に親の判断で選択肢を狭めていない
か、省みるべきかもしれない。

高橋さんはもともと特に宇宙に興味があ
つたわけではなかったが、就職を考えたと
きに頭に浮かんだのが毛利さんの姿だったそ
うだ。JAXAの魅力は「教科書に載っていな
いことをやっていること。世界初となる研究
開発をしていること。世界にないものを自分
たちで作っていくことに、大きな喜びと価値
を感じます」と最先端の技術を開拓する面
白さを語る。

憧れの存在であった毛利さんには入社間
もない頃社内であうことができ、その際に宇
宙から見た地球のすばらしさを語ってくれ
た。地球の姿は写真や映像で度々見てきた
が、実際に見てきた人の話は印象深く「何か
を知りたいと思ったから自分で実際に経験し
なければ」と強く思ったそう。

「宇宙飛行士のすごいところは、死と隣り
合わせの危険な極限状態で、最大限の力を
発揮できること」と高橋さん。そして「日本
人宇宙飛行士の魅力は、宇宙のすばらしさ
や無限の可能性を日本語で語ってくれると
ころ。日本語でないと伝わらないこと、日本
人だからこそ伝えられることを宇宙から日本
語で語ってくれることに大きな意義があり
ます」と日本人が宇宙に行くことができる
ようになったことを喜ぶ。



Profile プロフィール



高橋 伸宏 Nobuhiro Takahashi

1972年生まれ。
早稲田大学・大学院修士課程終了後、1998
年NASDA（現JAXA）入社。「おりひめ・ひこ
ぼし」「小型衛星μ-LabSat」などの衛星開発・
運用に携わる。
2005年に「きらり」を打ち上げるためにパイ
コヌール宇宙基地に滞在。その後、経営企画
部で将来の宇宙航空計画検討に携わる。
現在、システムズエンジニアリング推進室にて
宇宙船の検討等を実施。

地域で活躍
されている方を
ご紹介下さい。

シリーズ **今を輝く人**
人の和・まちの輪
シンヴィング「今を輝く人」では、地域で活躍されている方を取材させていただいております。お近くに「才能あふれる人」「地域貢献にがんばっている人」「子どもに夢を与える活動をしている人」など、この人を取材してほしいという方がいらっしゃいましたら、ぜひ編集部へ情報をお寄せ下さい。あなたの情報がシンヴィングをもっと楽しく、ワクワクする情報紙に変えていきます。「あなたの声」をお待ちしています。
ご連絡はハガキ・FAX・メールで編集部までお願いします。

■〒300-2337 つくばみらい市谷井田1379-7
(株)エムディー 「今を輝く人」係宛
■FAX 0297-44-4623
■E-mail info@tinving.com

昨年7月のスペースシャトル最後の打ち上
げを見に行つたという高橋さん。そこで改め
て強く思ったことがある。「自分が現役のう
ちに、自分が開発に関わつた有人宇宙船が
打ち上がる姿を見てみたい」と。

種子島宇宙センターから、日本人が開発
し日本人宇宙飛行士が乗つた宇宙船が打ち
あがる――その姿は私たち日本人に限りな
く大きな感動を与えてくれることだろう。
宇宙開発には夢や希望、ロマン、憧憬、勇気
：あらゆるものを包括するほどのパワーが秘め
られているに違いない。